



台湾中央気象署

Central Weather Administration



●職員数 約571人 ●うち研究者 約49人

ホームページ <https://www.cwa.gov.tw/V8/C/>

交流協定締結年月日：2017年8月16日

主管学部：四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構



国際交流の特色

外観

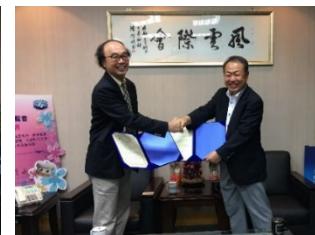
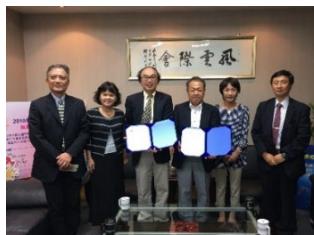


予測センター

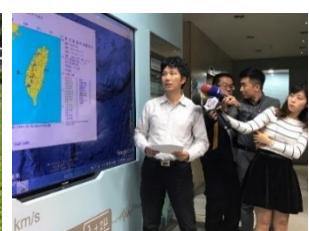
台湾交通部中央気象署(CWA)は日本の気象庁に相当する機関で、14部局、4管理部門、研究開発センターで構成され、加えて7つの独立運営センター、25の気象ステーション、4つの気象レーダーステーションと天文台を擁し、台湾の気象、地震、関連する海洋及び天文のオペレーションを行っています。

交流実績（令和4年度～令和6年度）

年度 受入・派遣	R4	R5	R6
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	1	2	4
オンライン交流参加者（本学）	11	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	1	0	0



協定調印式



教員からの声

台湾では日本と同様に多くの被害地震や台風被害が発生しています。1999年には台湾中西部を震源とした集集地震が発生し、2,400人以上の地震犠牲者が出ています。さらに、2024年には台湾東部の花蓮沖および25キロの海域でM7.2の地震が発生し、大きな被害が出ました。2025年に花蓮に台風が襲来し複合災害が発生しています。

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構は中央気象署と共に減災研究を行うことで、今後の地震津波被害等の軽減に関する様々な課題の解決を目指しています。

2025年では、地震被災地を訪問し、海底観測網設置・活用に関するアドバイスならびに減災セミナー・シンポジウムでの意見交換を通じて、相互の減災科学を推進しています。

さらに台湾中央気象署から地震センターの副部長が香川大学に滞在し地震研究を研究しています。また、金田義行特任教授はこれまでの研究貢献により表彰を受けています。

四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構
特任教授 金田義行



施設・活動